ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。（建築基準法施行令第９３条）

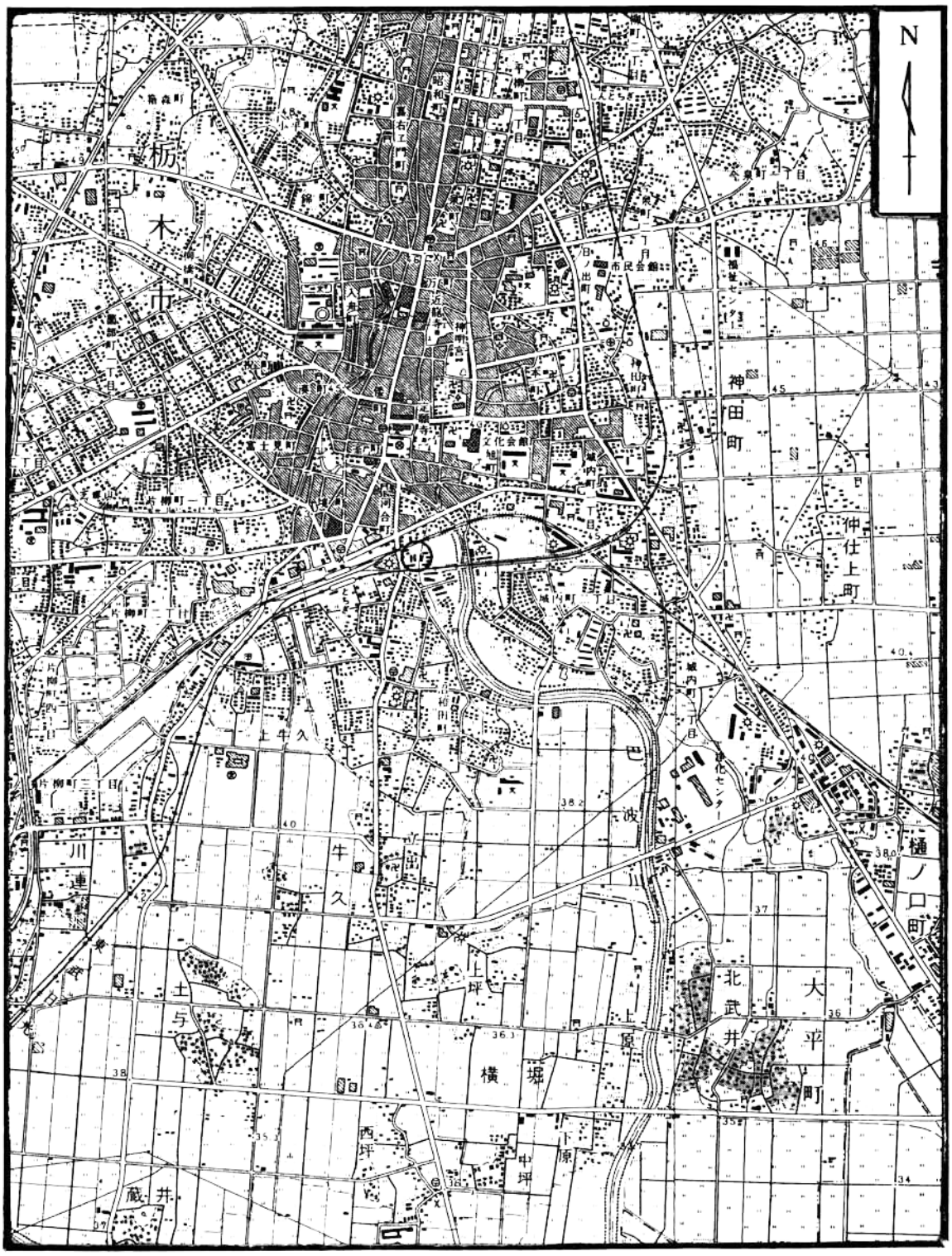
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県県土整備部建築課

調査地案内図

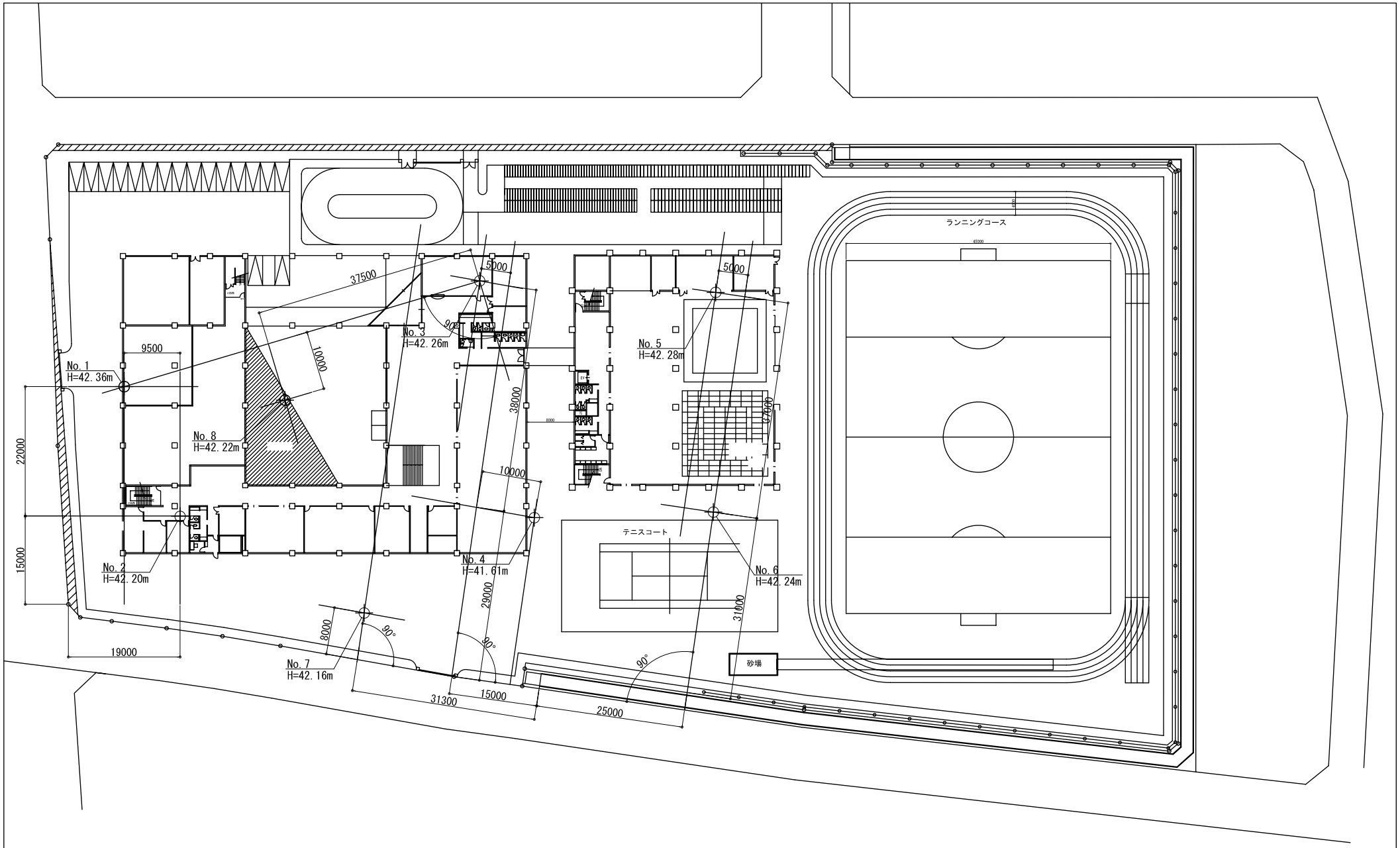
縮尺 1：25,000



○ 調査地

1:25,000

500m　0　500　1000　1500



工事名称	栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事		承認印
図面名称／縮尺	調査位置図（S：1/600）	図面番号	
設計年月日	平成14年11月15日		
設計者	一級建築士（第１３０９４９号） 森　実		
栃木県土木部建築課			

ボーリング柱状図

調　査　名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

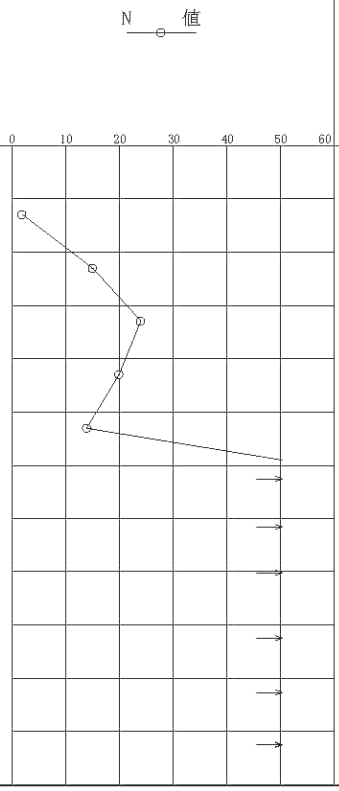
ボーリング名	No.1	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業地内第11街区			北緯	36° 22′ 10.7″
発注機関	栃木県			調査期間	平成 14年 11月 5日 ～ 14年 11月 7日	東経	139° 44′ 14.9″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H 42.36m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 KR-100	ハンマー落下用具	トンビ
総掘進長	11.35m								エンジン NFD9-EK	ポンプ	V6-B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	40.56	1.80	1.80		埋土（粘性土主体）	暗褐		軟らかい	表層3cmはアスファルト舗装。 GL-0.5mまでは砕石。 以深、不均質な粘土主体である。 含水量は中位である。
2 3 4 5 6 7	35.36	5.20	7.00		玉石混じり砂礫	褐灰	中位の～非常に密な		GL-4.0m以浅、礫径φ5～15mm程度の亜円礫を主体とする。 GL-4m以深、5～20mm程度の亜角～角礫を主体とする。 マトリクスは粘土混じり砂である。φ100mm程度の玉石が確認される。 粘土を少量含む。 含水量は多い状態である。
8 9 10 11	31.01	4.35	11.35		玉石混じり砂礫	黄褐	非常に密な		φ10～30mm程度の亜角～角礫を主体とする。φ100mm程度の玉石が確認される。 マトリクスは黄褐の粘土である。 GL-9m以深、粘土の混入量が多くなる。 含水量は中位～多い状態である。

孔内水位(m)／測定月日：11/5 2.30

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1/20	1		2/30
1.45 2.15	4	5	6	15/30
2.45 3.15	6	6	12	24/30
3.45 4.15	6	7	7	20/30
4.45 5.15	5	4	5	14/30
5.45 6.15	24	23	3/1	50/21
6.36 7.15	50/3			50/3
7.18 8.00	50/5			50/5
8.05 9.15	19	31		50/20
9.35 10.15	17	18	15/5	50/25
10.40 11.15	22	28		50/20
11.35				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						11/5
						11/6
						11/7

ボーリング柱状図

調　査　名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

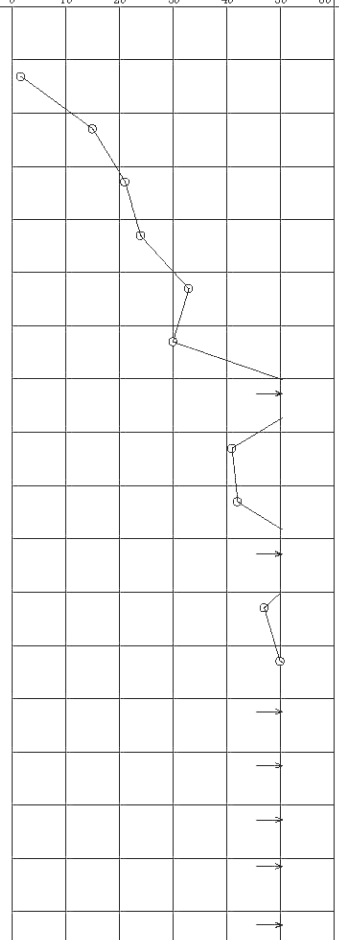
ボーリング名	No.2	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業地内第11街区			北緯	36° 22′ 9.8″
発注機関	栃木県			調査期間	平成 14年 11月 5日 ～ 14年 11月 9日	東経	139° 44′ 15.2″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H 42.20m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	17.36m	使用機種		試錐機	YBM-05D	ハンマー落下用具	トンビ
				エンジン	NF10-E	ポンプ	TA600

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	40.40	1.80	1.80		埋土（粘土主体）	暗褐		軟らかい	砂混じり粘土主体である。礫径φ2～5mm程度の亜角礫が混じる。含水量は中位である。
2～6	35.70	4.70	6.50		玉石混じり砂礫	暗褐～褐	中位の～密な		GL-3m以浅、φ5～30mm程度の亜角礫を主体とする。 以深、φ5～30mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。少量の粘土が混じる。 マトリクスは粘土混じり砂である。 GL-5m以深、φ2mm前後の粗砂～細礫となる。 φ100mm程度の玉石が混じる。 含水量は多い状態である。
7～12	30.20	5.50	12.00		玉石混じり砂礫	黄褐	密な～非常に密な		φ2～30mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。 φ100mm程度の玉石が少量混入する。 マトリクスは不均質な粘土であり、軽石、スコリアを含む。 含水量は中位～多い状態である。
13～17	24.84	5.36	17.38		玉石混じり砂礫	黄褐～黄褐灰	非常に密な		φ2～30mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。 φ100mm程度の玉石が少量混入する。 マトリクスは不均質な粘土であり、軽石、スコリアを含む。 含水量は中～多い状態である。 GL-16m付近において、φ100mm程度のチャートを主体とする玉石が確認される。

孔内水位(m)／測定月日：11/5 1.90

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
1.15	1/20	1/14		2/34
1.49～2.15	3	4	8	15/30
2.45～3.15	7	6	8	21/30
3.45～4.15	7	8	9	24/30
4.45～5.15	10	10	13	33/30
5.45～6.15	8	11	11	30/30
6.45～7.15	21	19	10/6	50/26
7.41～8.15	15	11	15	41/30
8.45～9.15	15	14	13	42/30
9.45～10.15	16	18	16/6	50/26
10.41～11.15	15	15	17	47/30
11.45～12.15	13	17	20	50/30
12.45～13.15	37	13/9		50/19
13.34～14.15	18	19	13/3	50/23
14.38～15.15	19	20	11/5	50/25
15.40～16.15	50/1			50/1
16.16～17.15	21	27	2/1	50/21
17.36				



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日：11/5、11/6、11/7、11/8、11/9

ボーリング柱状図

調　査　名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.3	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業地内第11街区			北緯	36° 22′ 11.3″
発注機関	栃木県			調査期間	平成 14年 11月 8日 ～ 14年 11月 14日	東経	139° 44′ 17.3″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H 42.26m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	17.41m	使用機種		試錐機	KR-100HA2	ハンマー落下用具	トンビ
				エンジン	NFD12-EK	ポンプ	V6-B

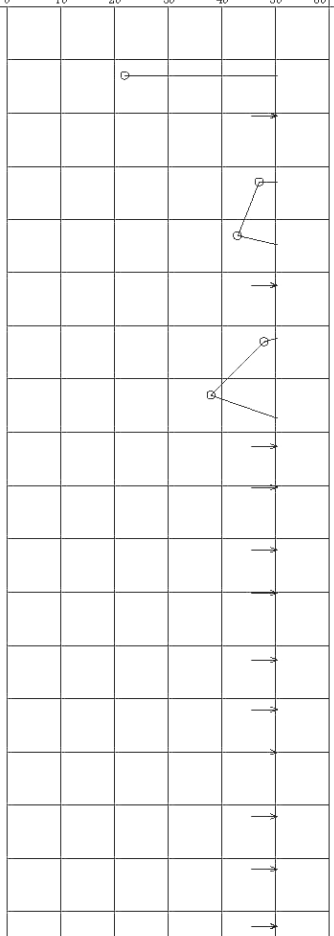
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	40.46	1.80	1.80		埋土（粘土混じり砂礫主体）	暗灰	中位の		礫径φ2～5mm程度の礫を主体とする。確認された最大礫径はφ20mm程度である。 含水量は中位の状態である。
2～7	35.26	5.20	7.00		玉石混じり砂礫	褐灰	密な～非常に密な		GL-4.3m以浅、φ2～10mm程度の亜角礫を主体とする。 φ100～150mm程度の玉石が玉石が点在する。 マトリクスは粘土混じり砂である。 GL-4m付近、黄褐の粘土を含む。 含水量は中位～多い状態である。
7～8	34.26	1.00	8.00		玉石混じり砂礫	黄褐	密な		φ5～20mm程度の亜角礫を主体とする。 φ100mm程度の玉石が混じる。マトリクスは不均質な粘土。含水量は中位。
8～17	24.85	9.41	17.41		玉石混じり砂礫	黄褐～褐灰～黄褐	非常に密な		GL-15m以浅は、φ2～5mm程度の褐灰色の亜円礫を主体とする。 GL-15m以深は、φ5～20mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。 全体的にφ100～200mm程度の玉石が混入する。 マトリクスは不均質な砂混じり粘土である。軽石、スコリアを含む。 全体的に含水量は多い状態である。

孔内水位(m)／測定月日：11/8 2.00

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
1.15	5	7	10	22/30
1.45 / 2.05	50/1			50/1
2.06 / 3.15	17	15	15	47/30
3.45 / 4.15	15	10	18	43/30
4.45 / 5.15	20	30/8		50/18
5.33 / 6.15	13	20	15	48/30
6.45 / 7.15	11	12	15	38/30
7.45 / 8.15	16	21	13/3	50/23
8.38 / 9.00	50/6			50/6
9.06 / 10.15	41	9/1		50/11
10.26 / 11.00	50/4			50/4
11.04 / 12.15	10	19	21/5	50/25
12.40 / 13.15	40	10/2		50/12
13.27 / 14.00	50/2			50/2
14.02 / 15.15	28	22/4		50/14
15.29 / 16.15	39	11/1		50/11
16.26 / 17.15	11	18	21/6	50/26
17.41				

N 値



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						11/8
						11/11
						11/12
						11/13
						11/14

ボーリング柱状図

調　査　名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.4	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業地内第11街区			北緯	36° 22′ 10.5″
発注機関	栃木県			調査期間	平成 14年 11月 5日 ～ 14年 11月 7日	東経	139° 44′ 17.9″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H 41.61m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	8.30m	使用機種		試錐機	KR-100HA2	ハンマー落下用具	トンビ
				エンジン	NFD10-EK	ポンプ	V6-B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	40.81	0.80	0.80		埋土（粘土主体）	暗灰			砕石を含む粘性土を主体とする。
1 2 3 4 5 6	35.61	5.20	6.00		玉石混じり砂礫	暗灰	密な～非常に密な		φ50～150mm程度の亜円礫を主体とする。φ100～200mm程度の玉石が多数確認される。確認された最大礫径φはφ200mm程度である。下部はφ5～10mm程度の亜円礫を主体とする。マトリクスは、粘土混じり砂である。含水量は中位である。
7 8	33.31	2.30	8.30		玉石混じり砂礫	黄褐	非常に密な		φ2～5mm程度の亜角礫主体の粘土混じり砂礫となる。100mm程度の玉石が少量混入する。含水量は中位の状態である。

孔内水位(m)／測定月日：11/5 1.30

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	50/5			50/5
1.20 2.15	20	12	10	42/30
2.45 3.15	18	32/5		50/15
3.30 4.15	12	20	18/4	50/24
4.39 5.15	15	35/3		50/13
5.28 6.15	7	21	22/1	50/21
6.36 7.15	20	23	7/1	50/21
7.36 8.15	11	39/5		50/15
8.30				

N 値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						11/5
						11/6
						11/7

ボーリング柱状図

調　査　名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

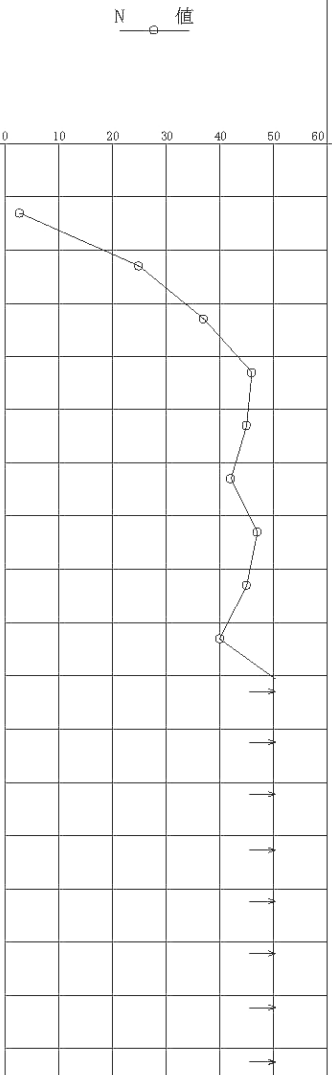
ボーリング名	No.5	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業地内第11街区			北緯	36° 22′ 11.6″
発注機関	栃木県			調査期間	平成 14年 11月 8日 ～ 14年 11月 14日	東経	139° 44′ 19.0″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	H 42.28m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	17.35m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	トンビ	
			エンジン	NFD9-EK	ポンプ	V6-B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	40.28	2.00	2.00		盛土（粘性土主体）	暗褐～褐灰		軟らかい	上部は粘土を主体とし、下部はシルトを主体とする。上部に、レンガ片を含む。下部、有機物、植物根を含む。含水量は中位である。
2～6	35.78	4.50	6.50		玉石混じり砂礫	褐灰	中位の～密な		礫径φ5～10mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。φ100～200mm程度の礫が混じる。マトリクスは粘土混じり砂であり、上部には多く混入する。含水量は中位である。
7～10	32.28	3.50	10.00		玉石混じり砂礫	茶褐	密な		φ2～10mm程度の亜角～角礫を主体とする。φ100～200mm程度の玉石が混じる。マトリクスは不均質な粘土である。軽石、スコリアを含む。含水量は中位～多い状態である。
11～17	24.93	7.35	17.35		玉石混じり砂礫	茶褐～黄褐灰～茶褐	非常に密な		φ2～10mm程度の亜角～角礫を主体とする。φ100～200mm程度の玉石が混じる。マトリクスは不均質な粘土であり、細砂が少量混じる。軽石、スコリアを含む。GL-11～13m付近、粘土の混入量が減少し、黄褐灰色を呈する。含水量は中位～多い状態である。

孔内水位(m)／測定月日：11/8 1.30

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
1.15	1/12	1	1	3/32
1.47～2.15	6	8	11	25/30
2.45～3.15	13	14	10	37/30
3.45～4.15	14	16	16	46/30
4.45～5.15	13	15	17	45/30
5.45～6.15	19	11	12	42/30
6.45～7.15	15	15	17	47/30
7.45～8.15	12	13	20	45/30
8.45～9.15	10	10	20	40/30
9.45～10.15	14	14	22/8	50/28
10.43～11.15	21	29/9		50/19
11.34～12.15	23	27/5		50/15
12.30～13.15	15	20	15/5	50/25
13.40～14.15	23	27/8		50/18
14.33～15.15	30	20/4		50/14
15.29～16.15	25	25/6		50/16
16.31～17.15	22	28		50/20
17.35				



掘進月日
11/8
11/9
11/11
11/12
11/13
11/14

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）

ボーリング柱状図

調　査　名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

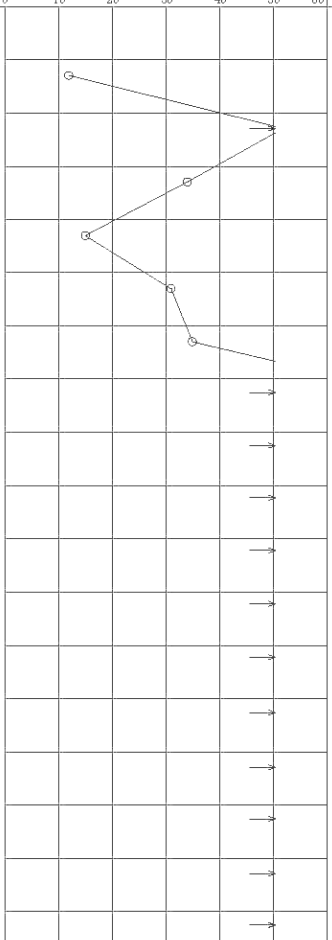
ボーリング名	No.6	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業地内第11区画	北緯	36° 22′ 10.4″
発注機関	栃木県	調査期間	平成 14年 11月 11日 ～ 14年 11月 15日	東経	139° 44′ 19.1″
調査業者名		主任技師		現場代理人	
コア鑑定者		ボーリング責任者			
孔口標高	H 42.24m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種		試錐機	YBM-05D
ハンマー落下用具	トンビ	総掘進長	17.36m	エンジン	NF10-E
ポンプ	TA600				

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	40.64	1.60	1.60		埋土（粘土混じり砂礫主体）	暗褐	中位の		礫径φ2～30mm程度の砂礫を主体とする。マトリクスは粘土である。含水量は中位である。
2 3 4	37.24	3.40	5.00		玉石混じり砂礫	暗灰	中位の～非常に密な		φ2～30mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。φ100mm程度の玉石が少量混入する。マトリクスは不均一な砂である。含水量は多い状態である。
5 6	35.24	2.00	7.00		玉石混じり砂礫	黄褐灰	密な		φ2～30mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。φ100mm程度の玉石が混じる。マトリクスは不均質な粘土であり、軽石、スコリアを含む。含水量は多い状態である。
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17	24.88	10.36	17.36		玉石混じり砂礫	黄褐灰～褐灰	非常に密な		φ2～30mmの亜円～亜角礫を主体とする。φ100～150mm程度の玉石が混じる。マトリクスは粘土である。粘土は不均質で、軽石、スコリアを含む。含水量は多い状態である。

孔内水位(m)／測定月日：11/11 1.50

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	3	4	5	12/30
1.45～2.15	11	18	21/9	50/29
2.44～3.15	11	13	10	34/30
3.45～4.15	4	5	6	15/30
4.45～5.15	7	10	14	31/30
5.45～6.15	10	12	13	35/30
6.45～7.15	27	23		50/20
7.35～8.15	25	25/9		50/19
8.34～9.15	25	25/5		50/15
9.30～10.15	27	23/4		50/14
10.29～11.15	38	12/5		50/15
11.30～12.15	38	12/5		50/15
12.30～13.15	24	18	8/3	50/23
13.38～14.15	16	11	23/9	50/29
14.44～15.15	24	20	6/1	50/21
15.36～16.15	16	23	11/8	50/28
16.43～17.15	18	27	5/1	50/21
17.36				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						11/11
						11/12
						11/13
						11/14

ボーリング柱状図

調　査　名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

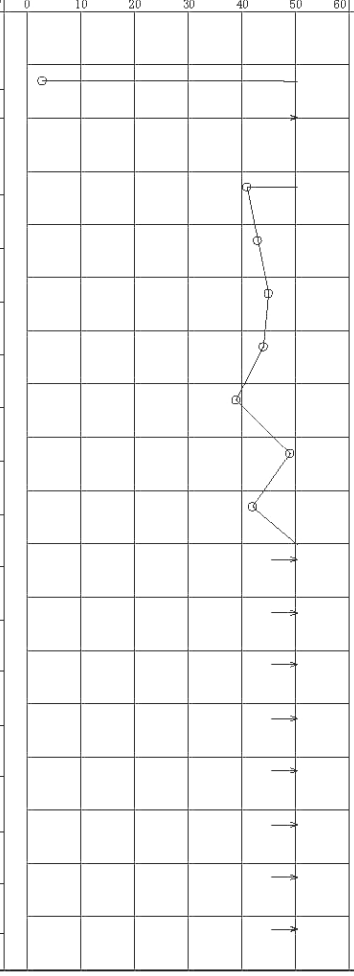
ボーリング名	No.7	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業第11街区			北緯	36° 22′ 9.6″
発注機関	栃木県			調査期間	平成 14年 11月 15日 ～ 14年 11月 20日	東経	139° 44′ 17.3″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	H 42.16m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	17.32m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	トンビ	
			エンジン	NFD9-EK	ポンプ	V-6B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	40.16	2.00	2.00		盛土（粘性土主体）	暗褐		軟らかい	上部30cmは粘土を主体とし礫径φ50mm程度の礫が混じる。以深、シルト主体である。有機物が混じる。含水量は中位である。
2	36.46	3.70	5.70		玉石混じり砂礫	暗灰～黄褐～暗褐	密な		φ2～20mm程度の亜角礫を主体とする。マトリクスは不均質な砂である。粘土が少量混じる。含水量は中位の状態である。φ100～200mm程度の玉石が多く混入する。
6	32.16	4.30	10.00		玉石混じり砂礫	茶褐	密な		φ2～30mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。φ100mm程度の玉石が混入する。マトリクスは不均質な粘土であり、砂が所々混じる。軽石、スコリアを少量含む。GL-8m付近において、粘土の混入量が減少する。含水量は多い状態である。
10	24.84	7.32	17.32		玉石混じり砂礫	茶褐～黄褐～茶褐	非常に密な		φ2～30mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。φ100mm程度の玉石が混入する。マトリクスは不均質な粘土である。砂が所々混じり、軽石、スコリアを含む。含水量は多い状態である。

孔内水位(m)／測定月日：11/15 1.90

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
1.15	1/11	1/11	1/9	3/31
1.46	貫入不能			50/0
2.00				
3.15	11	12	18	41/30
3.45	10	13	20	43/30
4.15				
4.45	13	13	19	45/30
5.15				
5.45	16	15	13	44/30
6.15				
6.45	10	14	15	39/30
7.15				
7.45	12	15	22	49/30
8.15				
8.45	10	15	17	42/30
9.15				
9.45	12	19	19/8	50/28
10.15				
10.43	11	20	19/9	50/29
11.15				
11.44	16	16	18/4	50/24
12.15				
12.39	14	17	19/7	50/27
13.15				
13.42	18	27	5/2	50/22
14.15				
14.37	13	17	20/5	50/25
15.15				
15.40	17	17	16/3	50/23
16.15				
16.38	22	28/7		50/17
17.15				
17.32				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						11/15
						11/16
						11/18
						11/19
						11/20

ボーリング柱状図

調査名　栃木県立単位制高等学校（仮称）新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

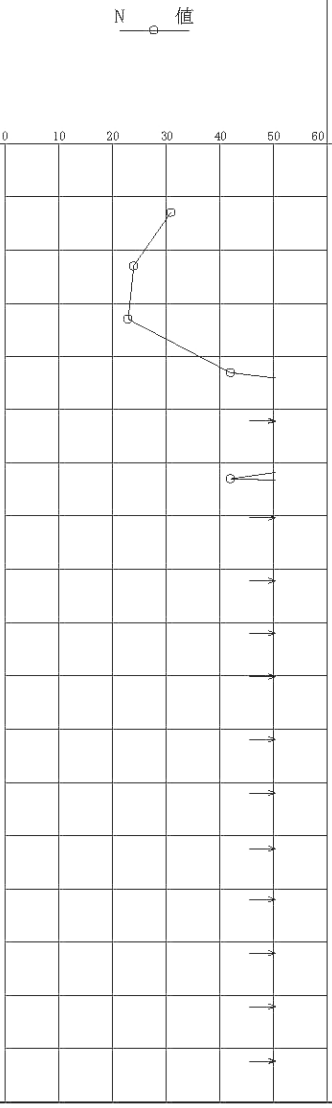
ボーリング名	No.8	調査位置	栃木県栃木市栃木駅前第2土地区画整理事業地内第11街区			北緯	36° 22′ 9.6″
発注機関	栃木県			調査期間	平成 14年 11月 15日 ～ 14年 11月 20日	東経	139° 44′ 16.0″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	H 42.22m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	17.32m	使用機種		試錐機	KR-100HA2	ハンマー落下用具	トンビ
				エンジン	NFD10-EK	ポンプ	V6-B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1 2 3	38.52	3.70	3.70		埋土（粘土混じり砂礫主体）	暗灰～黄灰	中位の～密な		GL-0.8mまでは、廃材、砕石などを含む残土である。 GL-0.8～2.6mは、礫径φ5～10mm程度の粘土混じり砂礫を主体とする。 以深は黄灰のほぼ均質な細砂を主体とする。
4 5 6	35.62	2.90	6.60		玉石混じり砂礫	暗褐	密な～非常に密な		φ5～20mm程度の亜円礫を主体とする。 所々、φ100～200mm程度の玉石が多数混入する。 マトリクスは、GL-5m以浅は、砂を主体として、GL-5m以深は、砂混じり粘土主体とする。 含水量は中～多い状態である。
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17	24.90	10.72	17.32		玉石混じり砂礫	黄褐～暗灰～黄褐	非常に密な		GL-7m付近mφ5～20mm程度の亜円礫を主体とする。 マトリクスは黄褐の不均質な粘土である。 粘土は軽石、スコリアを含む。 GL-8～11m、φ30～40mm程度の亜円礫が主体である。 所々に黄褐の粘土層を挟む。 φ100～200mm程度の玉石が多く混じる。 GL-11m以深、φ5～20mm程度の亜円～亜角礫を主体とする。 全体的に含水量は中位～多い状態である。

孔内水位(m)／測定月日：11/15 1.90

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
1.15	6	10	15	31/30
1.45 2.15	5	8	11	24/30
2.45 3.15	6	7	10	33/30
3.45 4.15	11	21	10	42/30
4.45 5.15	40	10/3		50/13
5.28 6.15	13	18	11	42/30
6.45 7.00	50/6			50/6
7.06 8.15	29	21/3		50/13
8.28 9.15	41	9/1		50/11
9.26 10.00	50/3			50/3
10.03 11.15	50			50/10
11.25 12.15	43	7/1		50/11
12.26 13.15	26	24		50/20
13.35 14.15	50			50/10
14.25 15.15	46	4/1		50/11
15.26 16.15	39	11/2		50/12
16.27 17.15	34	26/7		50/17
17.32				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						11/15
						11/16
						11/18
						11/19
						11/20